

事業所名 グループホーム 国府の里

日付 平成18年3月31日
 特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年
 評価調査員 老人保健施設相談員、介護支援
 専門員、厚生労働省認知症介護指導者

自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る (改善状況のコメントがあります！)

外部評価の結果

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

お雛様の飾ってある畳の間で、布紐でワラジを黙々と作っていた。「あら、珍しいもの作っていますね」「そうかね、布で作ると暖かくてね」「この方はふんわりしたものを作りますが、私が作るとベツちゃんこのしか作れません」と職員がこの利用者の得意技を説明してくれた。赤や青色の混じった可愛らしいワラジがあちこちに吊ってあった。

その傍らのソファに仲良しの利用者が、じっと見つめていた。「私の夫は子供が小さい時に戦死しました。学校のそばに住んでいたので校長先生が学校で働かせてくれましたね。親切にしてくれました。先生方も遅くなると家に泊まりに来たんですよ」「あの頃は大変だったけれど、皆親切で優しく、戦後の苦しさの中にも周りの人の温かさを語ってくれた。「私は小学校しか出ていませんが、陸軍病院で看護師をしていました。ローマ字も覚えたんです。新聞配達もした。八反の田んぼで農業もしていた。良く働いた」とどの人も昔の苦労話が出来て、懐かしい思い出として話してくれる。懐かしの歌謡曲が流れると、いい喉、いい声をして空で歌い出した。「やっぱり上手なんだ。良く知ってますね」「私の夫のお母さんが歌が上手でね」色艶のある表情で「星影のワルツ」等歌うと、あちこちに座っている利用者から手拍子が出て、皆で歌の時間となった。余り活発な動きのない人、お喋りしない人が、軍歌を職員が歌うと、次から次へと空で歌詞が出てくる。職員が「これしよう」と言うのではなく、一人の軍歌がきっかけで自然に皆での楽しい時間が広がっていった。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

周りが住宅地の中にあり、今後地域の中でグループホームの機能が活かされるような取り組みを期待したい。

利用者の外への欲求を出来るだけ限られた職員ではあるが、可能になるように今後取り組みを進めて欲しい。

屋外のウッドデッキが最近出来たようなので、活用方法を皆で考えて、今後活用して行ってもらいたい。

I 運営理念

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 1 | 理念の具体化、実現及び共有 | | |
| 記述項目 | グループホームとしてめざしているものは何か | | |
| | 「家庭の延長として家族のような関わりを持って自分らしく暮らしていただきたい」という気持ちで利用者に接している。これといったプログラムを持っていないが、食事を作る時は皆で作る。一人ひとりの得意とすること、したいことはどんどんしてもらおう。「各人のペースに合わせて、ゆっくり、ゆったりした気持ちで暮らしてもらいたい」と家族のような存在として暮らしてもらうことを目指している。利用者と職員間で余り飾ることなく、仲の良い親と娘、姑と嫁の関係で生活していて、利用者自身がこの暮らしを盛り立てているという雰囲気も感じた。 | | |

生活空間づくり

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 2 | 家庭的な共用空間作り | | |
| 3 | 入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり | | |
| 4 | 建物の外回りや空間の活用 | | |
| 5 | 場所間違え等の防止策 | | |
| 記述項目 | 入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か | | |
| | 長屋風の建物で、隣に同じグループホームが新しく出来ている。周辺に余裕のある敷地もないし、外観から見ても豊かな感じを見せているホームではないので、「果たして？」と思ったが、内は人間の暖かさを感じて安心した。内装や室内の造りよりも、ここに住んでいる利用者職員の間が「素朴さと暖かさ」の雰囲気を漂わせていた。男性2名は、余り喋らないが、話しかけると遠慮しがちに気持ち良く接してくれる。女性はよく話してくれたり、歌ったりする。リビングルームには人形やちぎり絵、縫いぐるみ等があり、ランと植物も利用者を癒してくれる。 | | |

ケアサービス

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|----|---------------------------|-------|-----|
| 6 | 介護計画への入居者・家族の意見の反映 | | |
| 7 | 個別の記録 | | |
| 8 | 確実な申し送り・情報伝達 | | |
| 9 | チームケアのための会議 | | |
| 10 | 入居者一人ひとりの尊重 | | |
| 11 | 職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ | | |
| 12 | 入居者のペースの尊重 | | |
| 13 | 入居者の自己決定や希望の表出への支援 | | |
| 14 | 一人でできることへの配慮 | | |
| 15 | 入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 | | |
| 16 | 食事を楽しむことのできる支援 | | |

III ケアサービス(つづき)

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|---|-------|-----|
| 17 | 排泄パターンに応じた個別の排泄支援 | | |
| 18 | 排泄時の不安や羞恥心等への配慮 | | |
| 19 | 入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援 | | |
| 20 | プライドを大切にされた整容の支援 | | |
| 21 | 安眠の支援 | | |
| 22 | 金銭管理と買い物物の支援 | | |
| 23 | 痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保 | | |
| 24 | 身体機能の維持 | | |
| 25 | トラブルへの対応 | | |
| 26 | 口腔内の清潔保持 | | |
| 27 | 身体状態の変化や異常の早期発見・対応 | | |
| 28 | 服薬の支援 | | |
| 29 | ホームに閉じこもらない生活の支援 | | |
| 30 | 家族の訪問支援 | | |
| 記述項目 | 一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か | | |
| | 職員が昼食の支度をしている。このホームは働かせないのかと思って私達は利用者とお喋りをしていて、ご飯やおかずが出来上がり、カウンター上に出すと、「みなさ～ん、手伝って下さいませんか～」の音がする。「さん、これつぎ分けて下さいませんか」「××さん、ご飯をついでくれる」豆ご飯が炊飯器の中で良い香りがする。「お豆さんをよく混ぜてね」混ぜにくさを見て、ボールを持ってきて、そこに移すと「これで混ぜやすいでしょ」と、「さん、お魚を盛り付けて下さる」煮た鯖が今日のメインディッシュ。 | | |
| | 次から次へと、皆がテーブルを囲んでお皿やお茶碗にどんどん盛り付けをしていく。盛り付けられた皿や椀が各人のお盆に配膳され、席に配られる。一汁三菜と豆ご飯、御馳走である。「いただきます」で食べ始める。皆さん食欲旺盛で、大体の人は自分でどんどん食べていく。 | | |

IV 運営体制

| 番号 | 項目 | できている | 要改善 |
|------|--|-------|-----|
| 31 | 責任者の協働と職員の意見の反映 | | |
| 32 | 家族の意見や要望を引き出す働きかけ | | |
| 33 | 家族への日常の様子に関する情報提供 | | |
| 34 | 地域との連携と交流促進 | | |
| 35 | ホーム機能の地域への還元 | | |
| 記述項目 | サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 | | |
| | 昨年9月の立ち上がり、まだ半年経過したばかりなので、まだこれからということである。管理者も悩みも多いし、これから期待と努力をしていくところが多い。 | | |
| | グループホームとしては、利用料金が低く、家族にとっては有り難いと思う。その為職員の配置も余り余裕がないので、利用者のケアに当たる時間に制約があるが、その割には利用者の雰囲気は大変良く安心した。 | | |
| | 母体は近所にある保育園であり、付近は住宅地である。これから地域との交流もして、家族との関係を構築していくのも今からであり、将来に期待したい。 | | |